

20名の国会議員が国交省にMOX輸送の安全性を憂慮する意見書を提出

反対の声をおそれ、国交省と佐賀県は2月26日夜に急きょ、輸送開始を了承 

◆2月26日－佐賀選出の国会議員を含む20名の議員が意見書を提出

国土交通省がMOX輸送に許可を出そうとする中で、20名の国会議員が国交省宛の意見書に署名した。意見書は、「MOX燃料の海上輸送の安全性については、十分に念を入れて確認すべきです」として、また「日本の核燃料輸送上の法律が守られているという確認がされるまでは、MOX燃料の輸送を承認しないようにすべきです」と求めている。署名をした議員は、玄海プルサーマルの地元佐賀県選出の原口一博さん、大串博志さん、さらに、福島みずほさん、川田龍平さん等である。福島議員は「国は電力会社の資料のみを鵜呑みにして、客観的に独自の調査もしておらず、安全性が確認されたとはいえない」とコメントを出した。

輸送は、国交省の承認と、佐賀県と玄海町が輸送に関する事前了解を了解しなければ実施できない。自筆の署名入り意見書は、第1陣の13名分が2月26日の午後5時までに国交省にFAXで送られた。佐賀選出の議員を含む国会議員の意見書は、国交省のみならず佐賀県に対しても強い圧力となったに違いない。そのことは、国と佐賀県等の対応によく現れている。

国交省は、意見書を受け取った直後の午後6時過ぎに、九州電力等に対して輸送の承認を告げ、佐賀県へは電話でその旨を伝えた。佐賀県と玄海町は、同日7時45分という異例の時間に、九電に対して事前了解を伝えた。26日は木曜日で、翌日もまだ平日であるにもかかわらず、わざわざ時間外の夜に事前了解を伝えた。議員の声がこれ以上大きくなならない内に、また、意見書で述べられている質問に答えることもなく、とにかく強引に承認の形を作ってしまったのだ。わずか1日半の間に集まった20名の意見書は、輸送ルート of 国々へも発信される。また、プルサーマルに関する国会や地元での議論の糧となり、今後に繋がっていくに違いない。

■27日－佐賀県庁で抗議文を提出し交渉－沈黙を続けるだけの県



2月27日午後1時から、佐賀県庁では、輸送の事前了解を了承した県に対して抗議行動が行われた。当会の代表も参加した。プルサーマルと佐賀県の100年を考える会、グリーン・アクションと当会の抗議文と、全国のプルサーマル関係の36団体からの要請書を県庁ロビーで読み上げ提出した。昨晚の事前了解に怒った約40名の人々が参加した。県は最初、椅子もない狭い部屋に案内したが、参加者から抗議され、別の部屋で交渉となった。対応したのはくらし環境本部副本部長と原子力安全対策課長等の3名だった。国会議員の自筆の署名も参考資料として提出した。参加者からは、議員の意見書も出されているのに、なぜ拙速に了解したのか、全国の市民からの要請書を検討したのか等と県に回答を求めた。しかし県の職員は、「国が安全を確認している」と語るだけで、何を聞かれても黙ったままだった。「不安で不安でたまらない」「使用済みMOX燃料をどうするのか。佐賀がゴミ捨て場になるのか」等々怒りの声が続く約3時間半におよぶ交渉だった。この間に生まれた新たな連携の力をベースに、広範な声を集めて、MOX燃料の装荷を阻止していこう。

<国交省に意見書を出された議員>

◇民主党 大河原雅子(参) 大串博志(衆) 大島九州男(参) 金田誠一(衆) 下田敦子(参) 原口一博(衆) 前原誠司(衆) 松野信夫(参) ◇社民党 阿部知子(衆) 菅野哲雄(衆) 近藤正道(参) 重野安正(衆) 照屋寛徳(衆) 日森文尋(衆) 福島みずほ(参) 瀬上貞雄(参) 保坂展人(衆) 又市征治(参) 山内徳信(参) ◇無所属 川田龍平(参)